

## 史（私）上最悪の 日々からの脱出行



滝川市医師会  
空知中央病院

黒田 義彦

新しい年の初めに相応しくない話ですが、艱難辛苦を振り払う気持ちでこのような副題にしたことをお許しください。

持病（前立腺、高血圧など）はあるけれども、コントロールでき、思い通りの仕事もできていたのですが、昨秋、ちょっとした不注意から転倒転落してしまい、市立病院に担送され、診断は「第12胸椎圧迫骨折」でした。全く身動きのできない一週間のあと、鎧のようなコルセットを装着され、安静時の痛みは軽減しましたが、自分ではかがむことも立ち上がることもできない惨めな状態が続き、3週後に退院しました。しかし、コルセットを装着している間は、椅子に座るか立ち上がる動作しかできません。焦るばかりでした。動けない苦痛は医療スタッフ、特にNurseの優しさに癒されたのが救いでした。

加えて、驚愕したのは、復帰した当初に、記憶力の顕著な減退が生じていたのです。いまここでも書いている「コルセット」という言葉が出てこないのです。加齢とともに少しは感じていたことですが、サロベール<sup>®</sup>やムコダイン<sup>®</sup>など薬名が出て来ません。医師生命は終わりかなと暗澹たる思いになりました。これらのことは高齢医師にはある程度経験することかもしれません。しかし、自由に動けない医師はもう用済みです。冗談ではなく、パニック障害？となり、夜道を歩き回ったりしたものです。Pessimisticにものを考えがちな私にとっては最大の危機でした。

それでも、そのうちコルセットを外しても、痛みの出現時間が徐々に短くなってきました。そして勤務する病院に肝硬変+肝癌のP氏が入院してきました。腹水がドンドン貯留し食事も摂れない状況になり、とりあえず腹水を抜いて患者さんの苦痛を軽減することが第一の選択肢となりました。以前なら躊躇なく実行する処置を、今の私が行っていいのか、ずいぶん悩みました。これが不成功に終わったら医師をretireするつもりなほどに、気持ちが追い詰められていたのです。処置は成功し、ひとつの重しは取れました。

もうひとつの問題である「記憶力」については、「覚えやすい記憶術」という学生時代に読んだ本を探したが見つからず、自分なりのやり方でやってみました。それは、例えばコルセットは、肩がコルセットとか、サロベールはサロマ湖のベール。ムコダインはまみムコダインとかでありました。でも多くなる

ほど面倒になり、止めてしまいました。やはり記憶には仕事に従事することが一番の薬です。

いよいよ、六回目の年男です。二つの出来事を克服した新しい年が、人生最善の年になるよう、身勝手に祈っております。

## 仙人部落



岩内古宇郡医師会  
神恵内村立神恵内診療所

三谷 深泰

「村民の数は1,006人」

こう聞かされた時、共感覚(シネステジア)というべきか、ぼけ気味の頭脳では、「バラ色の仙人の里」の幻想が一举に広がったに違いない。これこそ、まほろば「仙人部落」と合点、勇躍乗り込んで早や5年有半。肝腎の人口は瞬間に1,000の大台を割り込むと、その後も下降の一途。今日891人。あっぱれ仙人の夢ははかなくも潰えた。商売柄、己の診たてのまずさ、実力不足が、少なからず人口減少の責めを負うのではと、ただただ恐縮するばかりである。人の世の流れが、阿呆みたいに変ったのだ。都会へ、札幌へと、猫も杓子も、草木もなびくご時世。200万札幌市民なんて簡単になれる。一方、1,000人を切る村への転入は、諸事情から敷居は低くなさそうだ。難きこと登仙の如しか。

それかあらぬか、臨床経験半世紀を経てなお、この地で初めて遭遇した珍しい症例も多々ある。鬼ごっこをしていて外耳道に虫が飛び込んだ小学生。近くのトンネルで工事中、マムシに手の甲を噛まれた作業員。胃体上部の赤い粘膜を背景に、点々と青い星のように輝く転移性悪性黒色腫。さらにはティーチェ氏病、などなど。

毎年トランス・ヒューマンス、つまり病める自然の雪が降る間だけ、都会で過ごす10人余りのお年寄りがいる。折しも92歳、一人暮らしのお婆ちゃん、数ヶ月分の薬を携えて札幌の縁者の元へ行く。「来年、元気で帰ってきますからね」と念を押す。やがて雪が消える頃には、嬉々として、早速のご帰還だ。そして開口一番、はじけるパンチ・ラインはこうである。

「やっぱり神恵内が一番だ！！」